

2 受療率

全国の受療率（人口10万対）は、「入院」945、「外来」5,850である。

(1) 性・年齢階級別

性別にみると、入院では「男」893、「女」995、外来では「男」5,118、「女」6,544となっており、年齢階級別にみると、入院では「65歳以上」2,449、「70歳以上」2,787、「75歳以上」3,351、外来では「65歳以上」10,208、「70歳以上」10,742、「75歳以上」11,333となっている（表4、統計表4）。

年齢階級別に年次推移をみると、入院、外来ともにいずれの年次でも「65歳以上」が最も高くなっている。また、外来では「0～14歳」で、令和5年が昭和59年以降最も高くなっている。（図5、統計表4）

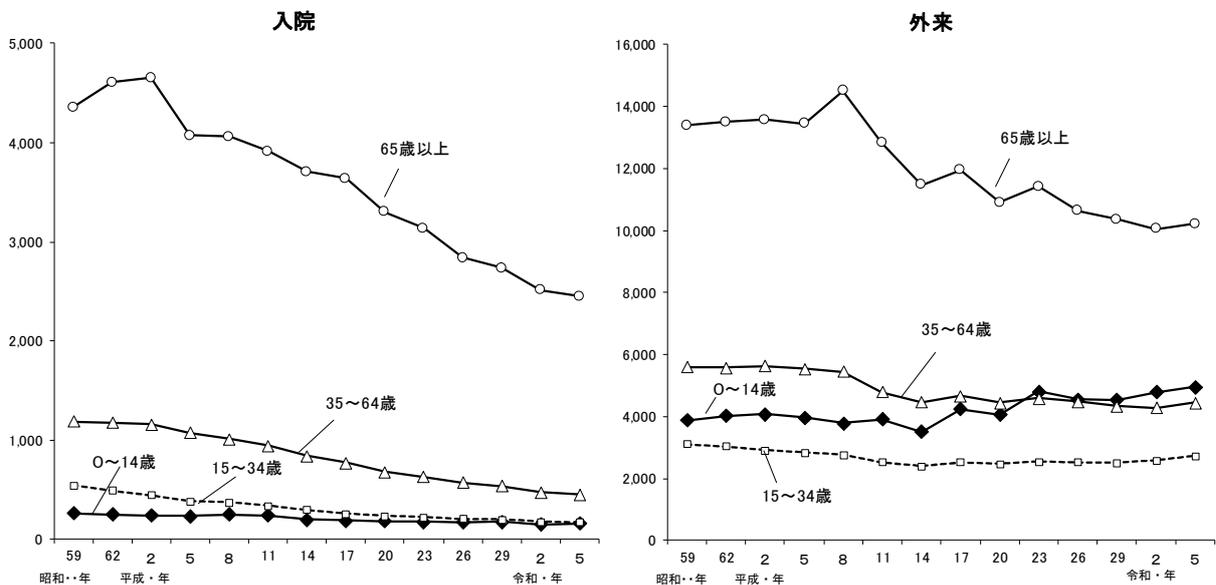
表4 性・年齢階級別にみた受療率（人口10万対）

年齢階級	入院			外来		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	945	893	995	5 850	5 118	6 544
0歳	1 237	1 275	1 197	6 467	6 642	6 284
1～4	153	165	141	6 291	6 548	6 021
5～9	86	96	77	5 196	5 404	4 976
10～14	87	89	85	3 680	3 879	3 472
15～19	115	113	118	2 459	2 279	2 650
20～24	137	123	152	2 367	1 783	2 987
25～29	182	127	241	2 837	1 893	3 836
30～34	239	158	324	3 201	2 177	4 281
35～39	242	192	294	3 353	2 360	4 386
40～44	258	260	256	3 501	2 668	4 358
45～49	318	335	300	3 912	3 108	4 739
50～54	441	489	392	4 395	3 510	5 296
55～59	613	698	528	5 171	4 482	5 860
60～64	838	983	695	6 320	5 571	7 055
65～69	1 117	1 320	924	8 108	7 799	8 401
70～74	1 502	1 770	1 263	9 395	9 163	9 603
75～79	2 033	2 315	1 803	11 197	10 919	11 428
80～84	2 952	3 153	2 808	12 010	11 823	12 144
85～89	4 413	4 589	4 312	11 483	11 740	11 336
90歳以上	6 275	6 441	6 216	10 021	10 475	9 860
(再掲)						
65歳以上	2 449	2 473	2 431	10 208	9 943	10 412
70歳以上	2 787	2 812	2 769	10 742	10 572	10 864
75歳以上	3 351	3 354	3 349	11 333	11 306	11 350

令和5年10月

注：総数には、年齢不詳を含む。

図5 年齢階級別にみた受療率（人口10万対）の年次推移



注：1) 平成23年は、宮城県の石巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県を除いた数値である。
2) 数値は、統計表4参照。

(2) 傷病分類別

傷病分類別にみると、入院では、高い順に「V 精神及び行動の障害」171、「IX 循環器系の疾患」147、「XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響」107となっている。外来では、「XI 消化器系の疾患」994、「XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」803、「IX 循環器系の疾患」677となっている。(表5、統計表5)

表5 傷病分類別にみた受療率(人口10万対)

令和5年10月

傷病分類	入院			外来		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	945	893	995	5 850	5 118	6 544
I 感染症及び寄生虫症	13	13	13	119	114	124
結核 (再掲)	1	1	1	1	1	1
ウイルス性肝炎 (再掲)	0	0	0	8	7	8
II 新生物<腫瘍>	96	109	82	208	192	223
悪性新生物<腫瘍> (再掲)	85	101	71	150	158	142
胃の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	7	10	4	12	17	9
結腸及び直腸の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	13	14	11	23	25	20
肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	3	5	2	3	5	2
気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	12	16	7	15	19	12
乳房の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	4	0	8	27	1	51
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	5	4	5	16	10	23
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	23	21	26	348	319	375
糖尿病 (再掲)	10	10	10	165	191	141
脂質異常症 (再掲)	0	0	0	130	85	173
V 精神及び行動の障害	171	164	178	197	182	211
血管性及び詳細不明の認知症 (再掲)	18	16	21	11	5	17
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害 (再掲)	102	97	106	40	41	39
気分[感情]障害(躁うつ病を含む) (再掲)	21	15	27	62	50	73
VI 神経系の疾患	99	88	110	130	109	150
アルツハイマー病 (再掲)	42	31	53	35	18	52
VII 眼及び付属器の疾患	8	8	9	268	210	323
VIII 耳及び乳様突起の疾患	2	1	2	65	54	76
IX 循環器系の疾患	147	142	151	677	644	708
高血圧性疾患 (再掲)	3	2	5	488	437	535
心疾患(高血圧性のものを除く) (再掲)	46	44	48	112	125	99
脳血管疾患 (再掲)	88	86	90	60	65	56
X 呼吸器系の疾患	67	77	58	503	490	515
肺炎 (再掲)	21	23	19	4	4	3
慢性閉塞性肺疾患 (再掲)	5	6	3	13	18	8
喘息 (再掲)	2	1	2	79	71	86
XI 消化器系の疾患	48	52	45	994	848	1 132
う蝕 (再掲)	0	0	0	179	166	192
歯肉炎及び歯周疾患 (再掲)	0	0	0	443	350	531
肝疾患 (再掲)	4	5	4	19	19	18
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	10	9	11	253	219	284
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	59	47	70	647	496	791
XIV 腎尿路生殖器系の疾患	41	41	41	271	254	287
慢性腎臓病 (再掲)	18	21	15	104	142	67
XV 妊娠、分娩及び産じょく	11	-	22	10	-	19
XVI 周産期に発生した病態	5	6	5	3	3	2
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	4	5	4	13	13	14
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	12	9	14	75	60	88
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	107	81	132	227	225	228
骨折 (再掲)	77	45	108	79	63	94
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	5	4	6	803	652	947
XXII 特殊目的用コード	12	13	11	24	25	23

(3) 都道府県別

都道府県(患者住所地)別にみると、入院では、「高知」が1,785と最も高く、次いで「鹿児島」1,743、「長崎」1,651となっている。また、「神奈川」が665と最も低く、次いで「東京」671、「埼玉」702となっている。

外来では、「和歌山」が6,846と最も高く、次いで「香川」6,807、「愛媛」6,598となっている。また、「沖縄」が4,528と最も低く、次いで「京都」4,867、「滋賀」5,144となっている。(図6)

図6 都道府県(患者住所地)別にみた受療率(人口10万対)

令和5年10月

